

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東苗穂校		
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ～ 令和7年 12月 20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 1日 ～ 令和7年 12月 20日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4 (回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高い満足度を持って来所を継続していただいている。	行き渋りが起こらないよう、お子様の「楽しい」を大切に活動を行っている。 また保護者様のお悩みに寄り添い、ご家族皆さまが前向きになれるお手伝いを心掛けている。	今後も一人一人、1組1組のお子様やご家族に対し、最大限のサポートをさせていただきます。
2	支援空間は、適切な環境、体制を維持されている。	個別療育に必要なスペースを十分に確保し、清潔で構造化された支援空間をご提供している。	集団活動や運動活動が可能なスペースを確保していきたい。 また、建物自体の老朽化に対応し、必要に応じバリアフリー化を進めていきたい。
3	適切な支援の提供がなされている。	保護者様、お子様のニーズに対応した質の高い支援をご提供している。これが、上記の高い満足度にも繋がっている。	今後も研修や検討会を重ね、より質の高い支援をご提供していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母会や茶話会、ペアレントトレーニング研修など、保護者様向けのイベントの実施がない。	送迎利用が浸透し、保護者様が来所される習慣がない。	保護者様が直接来所していただけるような、魅力的なイベントを企画・周知していく。
2	各種マニュアルや安全計画を保護者様が認知されていない。	作成したマニュアルや計画は、事業所内周知に留まっており、周知が不足している。	安心してご利用していただく為にも、保護者様への周知の頻度を増やしていく。
3	外部（園、学校、他事業所、行政 等）との連携、繋がりが少ない。	日々の業務により、連携等に割ける時間的、人力的余裕がない。	業務効率化や業務分掌を行い、外部連携に適切にリソースを割く。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東苗穂校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 7

回収数 4

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4	0	0	0		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	0	0	0		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1	2	0	1		建物の構造上、バリアフリー化できていない箇所があります。今後、バリアフリー化を検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	4	0	0	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	4	0	0	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	3	1	0	0		公表している支援プログラムに基づき、支援内容を決定させていただいております。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	4	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	3	1	0	0		ガイドラインに則り、支援内容を設定させていただいております。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4	0	0	0		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	2	2		今後、外部交流を図れるイベントの実施を検討していきます。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	3	1	0	0		わかりやすい、丁寧な説明を心がけます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	3	0	1	0		個別支援計画をご提示し、支援内容に同意いただいております。よりわかりやすく丁寧な説明を心がけます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	0	1	2		今後、支援プログラムや研修の実施を検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4	0	0	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	4	0	0	0		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	4	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	0	0	2		保護者様、きょうだい様に寄り添った支援やイベントの実施を積極的に検討させていただきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	3	0	0	1		定期的な避難訓練を実施しております。 保護者様への周知を徹底いたします。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	3	0	0	1		安全計画の策定を改めてわかりやすく保護者様に周知・ご説明いたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	4	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	4	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	4	0	0	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
こどもサポート教室「クラ・ゼミ」札幌東苗穂校		2025 年 2 月 14 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個別療育に必要なスペースを確保している。	運動療育に必要なスペースは不足している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員を遵守した人員数を配置している。	急な欠員にも対応可能な職員数の配置を目指したい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	机の配置等、状況に応じわかりやすい環境に変更している。	建物の構造上、バリアフリー化ができていない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の清掃により、清潔な環境を維持している。	建物の老朽化により、夏の暑さや冬の寒さを感じる場面がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室が準備され、状況に応じて使用できる環境となっている。	建物の構造上、個室の数は決められており、増設等は難しい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		今後も一人一人、1組1組のお子様やご家族に対し、最大限のサポートをさせていただく。	職員間に社歴や経験の差があり、業務レベルの差に繋がっている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		集団活動や運動活動が可能なスペースを確保していきたい。また、建物自体の老朽化に対応し、必要に応じバリアフリー化も進めしていきたい。	全ての保護者様から回答をいただいている訳ではないので、回答率100%を目指す。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		今後も研修や検討会を重ね、より質の高い支援をご提供していく。	職員全体で情報を共有する機会は、よりあっても良いと感じる。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	保護者による評価を行っている。	第三者による外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内研修は充実しており、ほぼ毎月参加可能な研修を実施している。	業務との兼ね合いから、外部研修に参加することが難しい。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		保護者様が直接来所していただけるような、魅力的なイベントを企画・周知していく。	より周知の必要を感じる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		安心してご利用していただく為にも、保護者様への周知の頻度を増やしていく。	6ヶ月の定期的な見直しだけではなく、児に変化が見られた際はより柔軟な計画変更の必要を感じる。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		同上	普段、直接支援を担当しない職員の意見もより取り入れることができるよう、努める。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		同上	全職員への周知を、より徹底していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		使用するツールが社内で作成・統一され標準化されている。また、小さな変化を見逃さないよう、注意深く児を観察している。	状況や状態の変化があった際は、全社員に共有していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域及び本人支援、家族支援、移行支援、地域支援・地域連携を網羅した支援内容が設定されている。	移行支援、地域支援・地域連携はあまり実施できていない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		療育を担当する指導員間で相談しながら立案している。	個別療育を担当する職員以外への周知をより積極的に図る必要がある。

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育を担当する指導員間で支援の共有をしていく中で、都度支援内容を変えている。	児が常に新鮮な気持ちで活動に参加できるプログラムを提供していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		イベントの実施が少しずつ増え、集団活動の様子も見ることができるようになっている。	通常は原則、個別療育の提供なので集団活動の比率は低い。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼にて全体打ち合わせを実施している。	支援に関する具体的な打ち合わせは、通常支援を担当している職員以外が支援を行う際などに限られ、「必ず」とは言えない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼にて全体打ち合わせを実施している。	同上
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援内容は遅滞なく記録し、都度検証し、改善を図っている。	より積極的に支援内容を見直し、検証する機会を設けていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的なモニタリング、個別支援計画の見直しを行っている。	・社外の担当者会議は長く行っていない。 ・全体的なモニタリング等、情報共有や意見交換の場がよりあっても良いと感じる。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に児発管が参加している。	児発管以外の職員の参加は少ない傾向にある。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		行政や各機関と連携しながら支援を行っている。	園での活動見学など、連携を深めたいができていないことがある。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学に向けたイベント等を実施している。	外部との情報共有・相互理解の機会は少ない。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	保護者様からの依頼があれば、支援内容等をまとめて就学先に提出できる書類を作成している。	依頼があれば情報提供・打ち合わせ等を行っているが、こちらから働きかけての実施はあまりできていない。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		児童発達支援センターの地区担当と定期的に情報共有をしている。	年に1回程度しか、連携の機会がない。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	送迎先の園にて、交流できる機会が時折ある。	事業所として、地域交流できるようなイベントを企画していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の支援内容は記録に残し、連絡帳や口頭にてお伝えしている。	直接面談する機会を、より多く設けていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	都度、ご家族様からのご相談に真摯に対応している。	ご家庭へ個別の相談・助言は行っているが、研修の実施等はできていない。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		主に契約時に、丁寧な説明を行っている。	契約時のみならず、定期的にご説明する機会を設けていきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ご家族とアセスメントや面談を実施し、個別支援計画を作成している。	児本人の気持ちや考えを、より考慮した計画を作成していきたい。

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を提示し、同意を頂いたうえで支援を実施している。	よりわかりやすい、丁寧な説明を行っている。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		お悩みやご相談については、真摯に対応している。	相談会や茶話会の実施を検討していきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	利用者様のご兄弟が参加可能なイベントを実施している。	父母の会、保護者会の開催はできていない。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		お悩みやご相談については、真摯に対応している。	より気軽に意見を頂ける環境や雰囲気を作っていきたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月通信の発行、ホームページの更新を行い情報を発信している。	SNSの利用はできていないので、今後検討していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		退職時には、鍵付書庫にて施錠し保管している。	ハード面を向上させ、より個人情報を厳格に取り扱っていきたい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		わかりやすい言葉やニュアンスにて、意思の疎通を図っている。	点字や手話にてコミュニケーションできる職員がいない。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	利用者様のご兄弟が参加可能なイベントを実施している。	地域交流できるようなイベントを企画していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	各種マニュアルを策定し、配置している。	ご家庭への周知はできていない。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	業務継続計画（BCP）を策定し、事業所内訓練を実施している。	想定までの訓練はあるが、実践は不足している。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		個別対応が必要なケースに関しては職員間で情報を共有している。	定期的に訓練を実施する等、救急対応ができる体制を整えていく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		原則、食品を扱う活動は行っていないが、その際は事前に調査票を配布しアレルギーのある児に対しては個別対応を行う。	今後、食品を扱う活動を行う際は、医師の指示書に基づく対応をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を策定し、事業所内訓練を実施している。	想定までの訓練はあるが、実践は不足している。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		緊急避難先や緊急連絡先等を、周知している。	万が一の際にすぐに確認できるフォーマットにて、わかりやすく作成していきたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットを事業内、北海道エリア内で共有し、再発防止に努めている。	今まで以上に小さなヒヤリハットにも敏感に対応し、再発防止に繋げていきたい。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		委員会、職員研修を定期的に実施し、虐待防止に努めている。	社内研修以外にも、事業所として、虐待防止策を策定し実行していきたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		現状、身体拘束の必要性のある児は在籍していないが、組織的にその内容を決定し、個別支援計画に記載している。	同上